別紙

日本農業普及学会　令和６年度春季大会・総会開催要領素（案）

Ⅰ　期　日　　令和７年３月６日（木）～７日（金）

Ⅱ　開催方式　会場参加およびオンライン参加併用方式

　 (会場) AP秋葉原　Iルーム

 〒110-0006 台東区秋葉原1-1 秋葉原ビジネスセンター４F

　　　　　　　　　　　TEL:03-5289-9109

Ⅲ　後　援　　未定

Ⅳ　協　賛　　1口２万円で協賛団体、企業を募集。協賛団体、企業には、配付資料の広告掲載（A4判白黒1頁）を提供。

Ⅴ　日　程

３月６日（木）

受 付 １２：００～

開 会 １３：００～１３：１０

シンポジウム

　基調講演　　１３：１０～１４：１０（60分）

　趣旨説明　　１４：１０～１４：２５（15分）

　第１報告　　１４：２５～１４：５０（25分）

　第２報告　　１４：５０～１５：１５（25分）

　休憩 　１５：１５～１５：３０

総合討論　　１５：３０～１７：００（90分）

懇親会　　　　会場近辺(詳細が決まり次第別途連絡)

　　　　　　　　(会費3,500円～4,000円の見込み)

３月７日（金）

受 付 　９：００～

研究発表会　　　９：１０～１１：５０

閉 会　　　 １２：００

　理事会は、2月中にオンラインで別途開催。

　総会は、『農業普及研究』６０号報告で代替。

Ⅵ　参加費

（１）資料代 会員　２，０００円

非会員　３，０００円（会場参加）

　　　　　　　　　　　　　　２，０００円（オンライン参加）

Ⅶ　大会参加・研究発表の申込み

（１）締め切り日

①大会参加申込み　　　令和７年２月２１日（金）

②研究発表申込み 令和７年１月２２日（水）

③研究発表原稿提出 令和７年２月３日（月）

（２）参加申込み方法

　　　『農業普及研究』第59号折り込み申込み用紙使用（FAX）

 または電子メール（fukyugakkai@jadea.jp)

Ⅷ　シンポジウム（３月６日）

1 テーマ　環境保全型・生態系機能向上技術普及の課題

2 背景と目的

近年、温室効果ガスや化学合成資材など農業由来の環境負荷が社会的に問われるようになってきた。技術合理性、経営合理性に加え、社会合理性が農業技術に求められている。そのような社会的要請に応えるべく、技術開発によって環境保全型技術の選択肢も広く提供されるようになった。しかし、生態系メカニズムを活用する環境保全型技術は環境依存的であり、技術の効果は見えにくく即効性のないものも多い。採用者には、圃場生態系の変化を捉える観察眼や、マニュアルでは伝えきれない技能が求められる。また、サポート体制として、新規開発資機材の安定的供給体制やテイラーメード型の技術支援体制の構築が必要である。加えて、生産性や品質向上に結び付かない技術は、環境価値という新たな付加価値化、食育や環境教育を通じた消費者理解も欠かせない。農林水産省は、みどりの食料システム戦略の一環として、産地に適した技術を検証し定着を支援する取り組みとして、「グリーンな栽培体系」への転換サポート事業（グリサポ）を実施している。本シンポジウムは、この取組をとおして、これまで普及があまり経験を蓄積していない「社会合理性」への対応を議論し、今後の普及活動に資することを目的とする。

３　基調講演

　　環境保全型・生態系機能向上技術の普及支援体制構築へ向けて

　　　横山　繁樹（日本農業普及学会会長）

４　シンポジウムの趣旨説明

 松本　浩一（農研機構企画戦略本部農業経営戦略部営農支援ユニット

ユニット長）

５　報告

　第１報告　「有害線虫防除における土壌消毒の代替技術」

　　　岩堀 英晶 （龍谷大学農学部農学科教授）

第２報告　「グリサポ技術普及の取り組み：技術採用のモチベ―ション、 主体性、支

　　　援体制」

　　　齊藤　総幸（全国農業改良普及支援協会・普及参事）

６　総合討論

　座長　松本　浩一（農研機構企画戦略本部農業経営戦略部営農支援ユニット

ユニット長）

７　シンポジウムの進め方

　　基調講演のあと、シンポジウムの趣旨説明、各報告を行い、休憩を挟んで総合討論を行う。

1. 基調講演

　　従来型の技術普及とは異なる、環境保全型・生態系機能向上技術の普及を進めるた

　めの課題を、技術合理性、経営合理性、社会合理性の観点から整理する。また、広く

　環境と農業に関する望ましい将来ヴィジョンを、生産者と消費者が共有するためには

何が求められているか、その議論の素材を提供する。

（２）シンポジウムの趣旨説明

　　シンポジウムのねらいと総合討論での議論内容への期待について述べていただく。

（３）第１報告の論点

　　環境保全型・生態系機能向上技術のなかで、普及関係者から注目されている技術を選び、その効果や普及の課題を整理する。

（４）第２報告の論点

　　環境保全型・生態系機能向上技術のなかで、比較的普及活動が良好に進められてい

る事例を選び、その成功要因を技術採用のモチベ―ション、主体性、支援体制の観点

から整理する。

（５）総合討論の論点

　　各報告の論点整理を行い、全参加者があらためて課題を共有したうえで全体討論を行う。

Ⅸ　研究会発表

１　座 長 　　普及学会員から２名

２　発表課題数　　　　　８課題まで（先着順）

　　　　　　　　　　　　８課題を超える場合には、９番目以降の課題は大会資料『農

業普及の研究と実践』誌上発表になります。ご了承下さい。

３　１課題の発表時間 ２０分（発表１５分、質疑５分）